

## 小冊子を活用する性教育の教材開発研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤田, 信一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010338">https://doi.org/10.14945/00010338</a>

## 小冊子を活用する性教育の教材開発研究

Development of Teaching Materials for Sex Education

赤 田 信 一  
Shinichi AKADA

（平成20年10月6日受理）

### はじめに

先進国の多くでは、HIVの感染者数は横ばい状態にある一方で、日本のHIV感染者数ならびにAIDS患者の方は年々増加している。特に若い年齢層の割合が高いとともに、クラミジア等の性感染症への感染も増加しており、若者の性の健康問題の解決は、極めて重要な課題といえよう。同時に、性暴力・性被害の発生件数の多さからも、それを未然に防ぐための対策や被害にあったときの回復手段についての知識・態度の獲得は、若者の健康・人権を守るためにも大変必要なことになっていると思われる。

この様な中、若者に自分たちの性の健康を守っていこうとする意識を保たせるためにも、より質の高い教材による効果的な性教育の実施が求められる。

そこで本稿では、若者を取り巻く性の健康課題を確認しつつ、それを踏まえ、若者たちにとってより効果的な性教育の実現を目指し、その際に活用できる小冊子による教材開発を行なった。

### 世界のHIV/AIDSの感染者数の動向

国連合同エイズ計画（Joint United Nations Programme on HIV/AIDS）によると、世界のHIV感染者数は2007年末において3320万人に登り、15歳未満の子供の感染者数も250万人と推計されている。また、2007年における新規HIV感染者数は、250万人を数え、世界的なHIVの流行が深刻である状況となっている。これは、一日につき約6850人がHIVに感染していることになり、世界の公衆衛生の最も大きな課題のひとつが、このHIV感染症の防止になっていることは言うまでも無い。特に、十分な医療体制が整えられてはいないサハラ以南アフリカの国・地域においては、HIV感染後のエイズ発症による死亡が、その国・地域の死亡原因の一位を占め、早急な対策が求められている。

しかしながら、様々な努力によって、改善の兆しも見えつつある状況も散在すると指摘されている。例えば、コートジボアール、ケニア、ジンバブエ、カンボジア、ミャンマー、タイなどでは、HIV感染率（HIVに感染した人の割合）の低下が報告されている。また、世界的なHIV感染率は横ばいであること、また、治療へのアクセスが拡大したこと等によるHIV関連

疾患による死亡者数は世界的には減少していること、が報告されている。

国連エイズ特別総会においての宣言にもあるように、現在のHIV/AIDSの感染者数の動向を踏まえ、安価で効果的な治療薬の開発・提供、若者の感染予防に関する対策の拡充、予防・ケア・サポートの包括的対応、女性・子供への治療支援、薬物注射の使いまわしの禁止啓発、HIV抗体検査へのアクセスの拡大などの取り組みが進められ、新規のHIV/AIDSの感染者数の増加阻止が図られている。

### 日本のHIV/AIDSの感染者数の動向

先進国のなかでHIV/AIDSの感染者が増加傾向にある国のひとつが日本である。厚生労働省によると、2007年の新規のHIV感染者とAIDS患者は1500件となり、前年の1358件を上回り過去最高の報告件数であった。

その内訳は、新規のHIV感染者報告件数は1082件（前年952件）であり、また新規のAIDS患者報告件数は418件（前年406件）となっている。

感染経路については、HIV感染においては同性間の性的接触によるものが67.4%、異性間の性的接触によるものが20.4%となっており、両方をあわせると全体の約88%を占める。また、エイズ患者におけるその感染経路では、同性間の性的接触によるものが37.6%、異性間の性的接触によるものが36.8%となっており、両方をあわせると全体の約74%を占め、新規の報告があったHIV感染者とエイズ患者の大部分の感染経路が、「性的接触」であるという特徴が明らかにされている。

### 日本の若者の性行動の特徴

日本のHIV/AIDSの感染の広がりの多くが「性的接触」によるものであることが指摘されているなか、若者の性行動のありようは、そのままHIV/AIDSの感染の広がりに関係していくものと思われる。もし、予防行動がしっかりと取られれば、若者の新規HIV感染数の増加は抑えられることが予想され、逆に、予防行動が曖昧になれば、現状にもあるような新規HIV感染者の更なる増加は避けられないであろう。その意味においても、若者の性行動のありようは、公衆衛生上の問題において大変重要なものとなり得る。

若者の性行動の特徴については、複数の報告がある。東京都小学校・中学校・高等学校の性意識・性行動調査の2005年調査では、性交経験があると答えた割合が、中学3年男子で4.3%、中学3年女子で9.8%、高校3年男子で35.7%、高校3年女子で44.3%となっている。また、(社)全国高等学校PTA連合会の2004年調査では、高校3年男子で29.7%、高校3年女子で38.6%となっている。これらの報告からも、高校生3年生の30%から40%の生徒が性交経験を持っていることが推察される。

若者の性交時のコンドーム利用率については、2003年の厚生労働省の調査によると、18歳から24歳の性交経験者のコンドーム利用率は、「毎回使う」と回答したものが24.9%程度に留まっている状況が明らかとなっており、若者の間にHIV/AIDSの感染につながりかねない無防備な性行動が広がっているともいえる。

無防備な性行動の実態があることを表すものとして、若者の性感染症への感染者数の増加が

報告されている。2003年の厚生労働省の調査によると、性交経験のある高校生男女2117名において、クラミジア感染率が男子で6.7%、女子で13.1%であった。これは、割合に置き換えるなら、性交経験のある男子高校生の約15人に1人、性交経験のある女子高校生の8人に1人がクラミジアに感染していることになる。また、厚生労働省による2005年度分の集計では、若者の人工妊娠中絶件数は、16歳で3277件（188.6人に1人）、17歳で5607件（114.9人に1人）、18歳で8236件（80人に1人）と報告され、人工妊娠中絶には犯罪被害などの様々な理由も含まれ、この数値の全てが、いわゆる「無防備な性行動」によるものと断定できるものではないが、若者の性行動の特徴の一端は、この数値に表れているものといえよう。

以上のように、現在の日本の若者の性行動は「リスクの高い状態にある」といえ、そのリスクはクラミジアをはじめとした性感染症、またその延長上にあるヒトパピローマウイルス（子宮頸部がんの原因とされる）への感染、そして、HIVへの感染へとつながっていく様相をみせており、それを連鎖を断ち切るためにも、若者に対する適切な性教育の開発が必要になっていることは疑いの余地も無い。

### 性教育用の小冊子の教材開発

現在、性に関する学校における指導においては、その発達段階を踏まえつつ、学校保健委員会や学級活動の時間のなかで、小学校の1年生段階から行なわれている学校も多い。学習指導要領においては小学校3・4年生の段階において、「育ちゆく体とわたし」の単元に代表される学習場面で、性に関する内容が扱われている。中学校段階にいたると、「心身の機能の発達と心の健康」また「健康な生活と疾病の予防」の単元に代表される学習場面で、性に関する内容が扱われている。また、高等学校においては、「現代社会と健康」また「生涯を通じる健康」の単元に代表される学習場面で、性に関する内容が扱われている。

それぞれの学校種で、性に関する指導が計画され、実施されている。今後は、若者の性に関する健康上の問題行動を改善するためにも、より一層の性教育の充実が求められよう。

そこで本稿では、高校学校に在籍する生徒への性に関する指導の充実に寄与するため、以下に示す小冊子を開発・実践した。指導実践形態は、会場を体育館とする学校保健委員会での90分間の講義であり、クイズ形式の発問を含んだ小冊子を活用し、読んでいったり書き込んでいったりしながら、学習を進めていくものとなった。

#### <表紙>

表紙については、「今こそ高めたい性の学力」また「望まない妊娠や性感染症を防ぐために」というタイトルを明記し、本時の学習のねらいを直接的にアピールするものとした。

#### <導入>

導入部分の1～2ページにおいては、授業者側の「性」に対する捉え方をまず示し、授業者がどのようなスタンスで今回の性教育を行うつもりであるのかを生徒に理解してもらうことに努めた。記した言葉は次のようなものとした。

『生まれてきた赤ちゃんです。赤ちゃんは、パパとママの大切な宝物です。パパとママは心から相手信頼し、そして愛しました。その二人の「性」の営みが、赤ちゃんを誕生させたのです。人間にとって、「性」の営みとは、愛し合う者同士の「絆」を深め、そして、新しい「生命」を生み出すことのできる、本来、すばらしい能力、すばらしい行為だと言えるのではないのでしょうか。

いつかは「性」の営みを始める可能性がある皆さん。「性」という、人間にとって本来「すばらしい」ものを、本来の「すばらしさ」のままに自分の中で育ててください。そして、自分の「性」を、自分らしい豊かなものにしていってください。「理性的な性」・「健康的な性」は、あなたの「豊かで幸せな人生」の歩みを、深いところから支えてくれるものと思います。そのためにも、「性の学力」を高めていく必要があります。「性の学力」の向上は、少なくともこれからの皆さんの健康の維持には欠かせません。この冊子とお話が、皆さん方にとって少しでも役に立つことがあれば幸いです。』

この導入部分の趣旨は、「性」というものが新しい命を生み出すためのとても大切なものであり営みであること、その「性」の営みをだれもがいつかは開始する可能性があること、その「性」の営みを開始する際にはリスクを低減するためにもある程度の知識が必要となること、その知識は人間の「性」をよりよいものにし、その人の人生を豊かなものにしてゆく可能性があること、等である。ひとことで言うなら、「性」や将来の「性の営み」を肯定的に捉えていこうとするものであり、同時に、肯定的に捉えるためには「性の健康」を維持するための適切な知識が必要である、というメッセージである。

#### <展開 1 >

展開部分の3～6ページにおいては、妊娠に関する○×のクイズ形式による問題と避妊行動に関するチェック項目を用意し、小冊子の紙面への答えの書き込みと、答え合わせの取り組みを行いながら、新たな知識を獲得していく場面を設けた。記した内容は次のようなものとした。

##### (クイズ項目)

- Q1 女性が生理中や生理後の数日間であっても、性交すれば妊娠することがある。
- Q2 男性のペニスが勃起した状態だけであれば、精子が体外へ出ていくことはないので、そのまま性交しても妊娠しない。
- Q3 女性の膣（ワギナ）の中では射精しない、いわゆる「外出し」をしていれば、妊娠することはない。
- Q4 性交によって男性の精子と女性の卵子の距離は、十数センチに近づく。
- Q5 性交しなければ妊娠しない。
- Q6 18歳の女性のうち、望まない妊娠（中絶）をした人は、\_\_\_\_人に1人。  
(’03年度；国内)
- Q7 19歳の女性のうち、望まない妊娠（中絶）をした人は、\_\_\_\_人に1人。  
(’03年度；国内)
- Q8 妊娠後に出産された人数が115万3855人であるのに対し、妊娠後に中絶された人数は約\_\_\_\_人である。(’02年；国内)
- Q9 妊娠したことのある女性のうち、これまでの生涯で一度でも中絶を経験した女性の割合は、約\_\_\_\_%である。(’00年NHK調査；国内)

(チェック項目)

- 1 男女交際をする場合でも、「性交はしない」付き合い方ができる。
- 2 相手が性交を求めてきても、「SEXしない付き合いがしたい」と言える。
- 3 性交する場合があったとしても、コンドームなどの避妊具を、「いつも毎回」、「SEXの始めから終わりまで」、「確実に」使用できる。
- 4 SEXしそうな雰囲気になっても、もしそこにコンドームが無かったら、お互いに自制しながら、その時のSEXを諦めることができる。
- 5 好きな異性との、「性交はしない付き合い方」にも価値を見出せる。
- 6 「一回ぐらい、少しぐらいなら大丈夫」という考え方を抹消できる。
- 7 勃起したペニスからは、精子が出ていることがあることを理解できる。
- 8 自分から「避妊」や「コンドームをつけて」という話を持ち出すことは、恥ずかしいことでもなんでもなく、二人にとって良いことだと思える。
- 9 完璧に避妊できることは、とてもカッコいい・素敵なことだと思える。

この展開1の場面では、高校生が普段はあまり意識していない若者の性に関する問題点（主に望まない妊娠・中絶）に触れることで、自分達の生活や意識・態度におけるリスクを実感してもらうことを目的とした。また、科学的根拠のない迷信やちまたに流布されている間違った知識に触れてもらうことで、これからの学習への意識付けを図った。

## <展開 2>

展開部分の7～8ページにおいては、若者の性行動の問題点を指摘し、その解決に向けてどのような態度や行動が必要であるのかについての授業者の考えを述べ、生徒それぞれの性に関する認識の再構築を願った。記した言葉は次のようなものとした。

『相手を好きになることはとても素敵なことです。しかし、性交を開始する前には、「心と心のつながり」を大切にされた交際を、ゆっくりと時間をかけてしてくださいね。「〇回目のデートで〇〇まで進もう！」なんて発想、「〇歳までには〇〇は済ませよう！」なんて発想は、ナンセンスです。あせる気持ちは禁物ですよ。相手は、独善的でなく、いたわりの心、優しい心の持ち主なのか？ 将来にどんな夢を持ち、そのために今どんな努力をしているのか？ うそをついたり、人をだましたりしていないか？ 社会的な常識があり、精神的にも経済的にも自立できている人なのか？ 二人の間に予期せぬ出来事が生じた時に、その対処能力がある人なのか？ 「性交」という行為を二人が開始するまえに、「心と心のつながり」を大切にされた交際の中で、相手が本当はどんな人間なのかについて、理解を深めていきましょう。同時に、自分がどんな人間であるのを、相手に理解してもらうことも大切です。相手とのそのような交際が「心地よい」と感じ、その積み重ねの先にある二人にとって性交するにふさわしい時期がくるまで、「性交（SEX）しない」でいられることは、あなたを「人から信頼される人間」へと、そして「人を信頼できる人間」へと成長させるでしょう。いつかは性交を開始する可能性のある皆さん。性交を、アダルトビデオ等が示すような、単なる興味本位の・快樂のみを追い求めるようなものとして捉えないでください。性交は、自立した人間同士が、対等な立場で、プライバシーが保たれた中、二人の合意のもとに行なわれる行為です。そんな二人の行為だからこそ、性交は二人の絆を深め、そして、新しい生命を生み出すことができるでしょう。』

この展開2の場面では、それまでの若者の性に関する問題行動の存在を知ったうえで、その問題を解決し、安全な行動選択がとれるようになることを願い、授業者の若者に対する個人的なメッセージを伝える場面となった。このメッセージは、それを高校生へ押し付けるものではなく、人生の先行世代を生きるひとりの人間としてのひとつの考え方を表明したものであり、この内容を聞く高校生に肯定的にも否定的にも自由にそれを受けとってもらい、ひとつの触発材料として自分の性行動の選択に活かしてもらいたいと願ったものである。

### <展開 3>

展開部分の9～10ページにおいては、性感染症に関する○×のクイズ形式による問題と感染を回避する行動に関するチェック項目を用意し、小冊子の紙面への答えの書き込みと、答え合わせの取り組みを行いながら、新たな知識を獲得していく場面を設けた。記した内容は次のようなものとした。

#### (クイズ項目)

- Q1 性感染症である「クラミジア」に感染している女性は15～19歳で約24人に1人、20～24歳で約16人に1人と推計されている。(’01年：国内)
- Q2 若い女性の性器は、性感染症に感染しやすい特徴を持っているが、実際に感染したときの自覚症状は、約7割以上が感じないとされる。
- Q3 コンドームを使わないSEXを一回しただけでも、感染することがある。
- Q4 HIV感染者・エイズ患者数は、’02年で1.8万人、’10年で5万人と推計されているが、この増加現象は先進国の中でも日本だけである。

#### (チェック項目)

- 1 「性感染症」は私たちの身近な病気のひとつになっており、コンドームを使わない「性交(=SEX)」をすれば、これに感染する可能性が極めて高いことを、明確に理解できている。男女
- 2 「性感染症が多い時代に自分は生きている」という自覚を持てる。
- 3 たった一回の性交でも、コンドームを正しく使わなければ性感染症に感染する可能性があることを理解できる。
- 4 口を使った性交の際もコンドームを使わなければ感染することがある。

「クラミジア」や「淋病」、また「HIV」などの性感染症に感染する人が増え、性感染症が身近な問題になっています。しかし、愛し合う二人の素敵な関係において、性感染症を、無縁なものとする方法はありません。そのひとつは、「性交しない」こと。もうひとつは、もし性交するならば、「いつも必ず」、「始めから終わりまで」、「確実に」コンドームを使うことです。コンドームの使用は愛し合う二人の「お互いに対する愛情の証」です。

この展開3の場面では、高校生が普段はあまり意識していない若者の性に関する問題点(主に性感染症への感染)に触れることで、自分達の生活や意識・態度におけるリスクを実感してもらうことを目的とした。また、科学的根拠のない迷信やちまたに流布されている間違った知識に触れてもらうことで、これからの学習への意識付けを図った。

#### <展開 4>

展開部分の11ページにおいては、性感染症への感染や望まない妊娠を防止するための「コンドームの利用」に関する内容を示した。また、コンドームの着用を拒む相手に対して、どのようなコミュニケーションでその着用を促すかについての例を示し、その他の方法を導き出す活動を行うこととした。記した内容は次のようなものとした。

『性交をする関係になったとき、「コンドームを確実に使える（使わせる）技術を持つ」ことは望まない妊娠や性感染症を防ぐためにとても重要です。1) ペニスの皮を根元まで手繰り寄せる。2) 傷つけず、表裏を間違えずにペニスにかぶせ、毛を巻き込まないようにして途中まで巻きおろす。3) 一度少し戻して、余ったペニスの皮を再度根元まで手繰り寄せる。4) ペニスの根元まで巻きおろす。

～コンドームの利用を求めるセリフ～

(例)「私のことを大切にしてほしいから、コンドームをちゃんと付けてね!」

この展開4の場面では、必要性ある場合におけるコンドームの価値について学び、その価値を自分のその状況における利益（望まない妊娠をさけることや、性感染症への感染を防ぐこと）に結びつけるための方法論を学ぶことをねらいとした。また、コンドームの使用を求める抵抗感をなくし、同時にそのためのコミュニケーション能力を高めるために、コンドームの使用を求めるセリフについてロールプレイングの手法で学んでいった。

#### <展開 5>

展開部分の12ページにおいては、性被害の発生を未然に防ぐために、特に「出会い系サイト」の無批判な利用の危険性についての認識チェックと被害の具体例を示した。記した内容は次のようなものとした。

『「出会い系サイト」を利用した交際により、多数の犯罪が発生しており（H16年：1582件）、下記のような事件が実際に起こっていることから、その危険性を十分に理解できている。（できているorできていない）』

事例1：出会い系サイトで知り合った相手。待ち合わせの場所に行くとき車が止まっていた。ドライブに行こうということで、誘われるまま助手席に乗った。その後、相手の態度が急変し、「俺はヤクザだ。抵抗するとお前とお前の家族を殺す」と言われ、ドアロックをかけられ、携帯電話も奪われた。相手の部屋に連れて行かれると、そこに2人の男が待っていて、暴行された。

事例2：出会い系サイトで知り合った相手と街で会った途端、「おれのことを好きになれ。好きにならなかつたら殺す。」と脅され車に乗せられた後、自宅に連れ込まれ手錠をかけられた。その後3週間監禁・暴行された。

この展開5の場面では、匿名性の高いコミュニケーションツールのひとつである出会い系サイトに潜む危険性について学び、性犯罪に巻き込まれないための知識・態度を養うことを目指した。

#### <展開 6>

展開部分の13ページにおいては、性に関する健康トラブルが生じた時の対処法についてのチェッ



クリストとその情報を示した。記した内容は次のようなものとした。

『もし、望まない妊娠や性感染症への感染が疑われた場合には、保護者や学校の先生、また専門医に早急に相談し、適切な対応をとることが重要であることを、明確に理解できている。(できているorできていない)』

『妊娠は「生命」にかかわる問題でもあります。自分だけで思い悩むのではなく、早急に信頼できる大人に相談し、今後の最善の対応を見つけていきましょう。また性感染症については、それを治療しないで放置しておく、女性では、不妊・子宮外妊娠・流産や子宮ガン等、また男性では、尿道炎・慢性前立腺炎等に苦しむ可能性があります。加えて、性器クラミジア等を放置するとHIVに感染しやすくなり、なにより早急な治療が大切です。「恥ずかしさ」等の感情があるかとは思いますが、若者の相談に対し大人は誠意を持って対応してくれますよ。安心して相談してください。なお実際の検査・治療等は、主に、女性は産婦人科で、男性は泌尿器科で行ないます。』

この展開6の場面では、仮に性の健康トラブルに見舞われたときでも、早期の解決策を講じることにより、その症状を軽くしたり解決を早めたりするための必要な知識・態度を養うことを目指した。

#### <展開 7>

展開部分の14ページにおいては、性被害が生じた時の対処法についてのチェックリストとその情報を示した。また性情報の問題点についても示した。記した内容は次のようなものとした。

『性被害にあった場合には、早急に大人に相談して必要な治療を受けるとともに、さらなる被害者を出さないためにも、警察へ被害を届け出ることが重要であることを、理解できている。(できているorできていない)』

『県警では、「性犯罪被害110番」を開設し、婦人警察官が秘密厳守で対応してくれます。電話0120-78●8●0（平日8：30～17：15）。警察に加害者を逮捕してもらい、性犯罪の罪を償わせましょう。』

『興味本位で作られた性情報の中の誤りをしっかりと見抜く力を身につけることが重要であることを、理解できている。(できているorできていない)』

『アダルトビデオ等の中には、妊娠や性感染症につながる危険な性行為が数多く示されています。危険性を見抜き、それらの行為を無批判に受け入れたりしないようにしましょう。』

この展開7の場面では、仮に性被害に見舞われたときでも、早期の解決策を講じることにより、被害の救済や人権の回復を早めたりするための必要な知識・態度を養うことを目指した。

小冊子の実際



静岡大学 教育学部  
赤田 穂一

「望まない妊娠」や  
「性感染症」を防ぐために  
今こそ高めたい「性の学力」

小冊子の実際  
(本体は冊子形式)



誕生後 5分

生まれてきた赤ちゃんです。赤ちゃんは、パパとママの大切な宝物です。

パパとママは心から相手を信頼し、そして愛し合いました。

その二人の「性」の営みが、赤ちゃんを誕生させたのです。

人間にとって、「性」の営みとは、愛し合う者同士の「絆」を深め、そして、新しい「生命」を生み出すことのできる、本来、すばらしい能力、すばらしい行為だと言えるのではないのでしょうか。

いつかは「性」の営みを始める可能性がある皆さん。

1

成長した男性と女性が「性交 (=SEX)」をすれば、妊娠する(妊娠させる)可能性があることを、明確に理解できている。

できている  できていない

(O or X)

- Q1 女性が生理中や生理後の数日間であっても、性交すれば妊娠することがある。
- Q2 男性のペニスが勃起した状態だけであれば、精子が体外へ出ていくことはない、そのまま性交しても妊娠しない。
- Q3 女性の膣(ワジナ)の中では射精しない、いわゆる「外出し」をしていれば、妊娠することはない。
- Q4 性交によって男性の精子と女性の卵子の距離は、十数センチに近づく。
- Q5 性交しなければ妊娠しない。

3

いい加減な気持ちではなく、強い意識をもって「妊娠しない・させない」ための行動を選択・実践しなければ、「避妊は失敗する可能性が高い」ことを、明確に理解できている。

できている  できていない

- Q1 18歳の女性のうち、望まない妊娠(中絶)をした人は、 人に1人。( '03年度;国内)
- Q2 19歳の女性のうち、望まない妊娠(中絶)をした人は、 人に1人。( '03年度;国内)
- Q3 妊娠後に出産された人数が115万3855人であるのに対し、妊娠後に中絶された人数は約人である。( '02年;国内)
- Q4 妊娠したことのある女性のうち、これまでの生涯で一度でも中絶を経験した女性の割合は、約%である。( '00年NHK調査;国内)

5

「性」という、人間にとって本来「すばらしい」ものを、本来の「すばらしさ」のままに自分の中で育ててください。そして、自分の「性」を、自分らしい豊かなものにしていってください。

「理性的な性」・「健康的な性」は、あなたの「豊かで幸せな人生」の歩みを、深いところから支えてくれるものと思います。そのためにも、「性の学力」を高めていく必要があります。

誕生後 8ヶ月

「性の学力」の向上は、少なくともこれからの皆さんの健康の維持には欠かせません。

この冊子とお話が、皆さん方にとって少しでも役に立つことがあれば幸いです。



2

「妊娠」は、人間の持っている「性」のすばらしい能力のひとつです。だからこそ、「妊娠を望まない時」と「妊娠を望む時」に応じた「行動」を選択・実践する必要があります。

あなたは現在、妊娠を望んでいますか?  Yes  No

「妊娠を望まない時」は次の行動を適切に選択し・実践できる。

(できるものをチェックしてください)

- 男女交際をする場合でも、「性交はしない」付き合い方ができる。
- 相手が性交を求めてきても、「SEXしない付き合いがしたい」と言える。
- 性交する機会があったとしても、コンドームなどの避妊具を、「いつも毎回」、「SEXの始めから終わりまで」、「確実に」使用できる。
- SEXしそうな雰囲気になっても、もしそこにコンドームが無かったら、お互いに自制しながら、その時のSEXを諦めることができる。

4

「望まない妊娠による中絶」は、母体保護法にそって妊娠21週までの胎児を対象に、いくつかの条件の下において医療機関で行われますが、最初から中絶を望んで、性交をする男女はいません。にもかかわらず、これほどまで中絶件数が多いのは、相手との関係における性交 (=SEX) の際、それに伴う妊娠の可能性を「過小評価」してしまう男女が多いからです。

「妊娠しない」ために次のような認識を持つことができる。

(できるものをチェックしてください)

- 好きな異性と、「性交はしない付き合い方」にも価値を見出せる。
- 「一回くらい、少くくらいなら大丈夫」という考え方を抹消できる。
- 勃起したペニスからは、精子が出ていることがあることを理解できる。
- 自分から「避妊」や「コンドームをつけて」という話を持ち出すことは、恥ずかしいことでもなんでもなく、二人にとって良いことだと思える。
- 完璧に避妊できることは、とてもカッコいい・素敵なことだと思える。

6

誕生後 10ヶ月



相手を好きになることはとても素敵なことです。  
 しかし、性交を開始する前には、「心と心のつながり」を大切にされた交際を、ゆっくりと時間をかけてしてくださいね。  
 「〇回目のデートで〇〇まで進もう！」なんて発想、「〇歳までには〇〇は済ませよう！」なんて発想は、ナンセンスです。  
 あせる気持ちは禁物ですよ。  
 相手は、独善的でなく、いたわりの心、優しい心の持ち主なのか？

将来にどんな夢を持ち、そのために今どんな努力をしているのか？  
 うそをついたり、人をだましたりしていないか？  
 社会的な常識があり、精神的にも経済的にも自立できている人なのか？  
 二人の間に予期せぬ出来事が生じた時に、その対処能力がある人なのか？

7

「性感染症」は私たちの身近な病気のひとつになっており、**コンドームを使わない「性交 (=SEX)」をすれば、これに感染する可能性が極めて高いことを、明確に理解できている。**

できている  できていない (O or X)

- Q1 性感染症である「クラミジア」に感染している女性は15~19歳で約24人に1人、20~24歳で約16人に1人と推計されている。
- Q2 若い女性の生殖器は、性感染症に感染しやすい特徴を持っているが、実際に感染したときの自覚症状は、約7割以上が感じないとされる。
- Q3 コンドームを使わないSEXを一回しただけでも、感染することがある。
- Q4 HIV感染者・エイズ患者数は、'02年で1.8万人、'10年で5万人と推計されているが、この増加現象は先進国の中でも日本だけである。

9

性交をする関係になったとき、**「コンドームを確実に使える(使わせる)技術を持つ」ことは望まない妊娠や性感染症を防ぐためにとても重要です。**

~コンドームの装着~



うまく装着するためには練習が必要

- 1) ペニスの皮を根元まで手繰り寄せる。
- 2) 傷つけず、表裏を間違えずにペニスにかぶせ、毛を巻き込まないようにして途中まで巻きおろす。
- 3) 一度少し戻して、余ったペニスの皮を再度根元まで手繰り寄せる。
- 4) ペニスの根元まで巻きおろす。

~コンドームの利用を求めるセリフ~

(例)「私のことを大切にしてほしいから、コンドームをちゃんと付けてね！」

11

もし、望まない妊娠や性感染症への感染が疑われた場合には、**保護者や学校の先生、また専門医に早急に相談し、適切な対応をとることが重要であることを、明確に理解できている。**

できている  できていない

妊娠は「生命」にかかわる問題でもあります。自分だけで思い悩むのではなく、早急に信頼できる大人に相談し、今後の最善の対応を見つけていきましょう。

また性感染症については、それを治療しないで放置しておく、女性では、不妊・子宮外妊娠・流産や子宮ガン等、また男性では、尿道炎・慢性前立腺炎等に苦しむ可能性があります。加えて、性器クラミジア等を放置するとHIVに感染しやすくなり、なにより早急な治療が大切です。

「恥ずかしさ」等の感情があるかとは思いますが、若者の相談に対し大人は誠意を持って対応してくれますよ。安心して相談してください。なお実際の検査・治療等は、主に、女性は産婦人科で、男性は泌尿器科で行ないます。

13

8

「性交」という行為を二人が開始するまえに、「心と心のつながり」を大切にされた交際の中で、相手が本当はどんな人間なのかについて、理解を深めていきましょう。同時に、自分がどんな人間であるのを、相手に理解してもらうことも大切ですね。相手とのそのような交際が「心地よい」と感じ、その積み重ねの先にある二人にとって性交するにふさわしい時期がくるまで、「性交(SEX)しない」でいられることは、あなたを「人から信頼される人間」へと、そして「人を信頼できる人間」へと成長させるでしょう。

いつかは性交を開始する可能性のある皆さん。性交を、アダルトビデオ等が示すような、単なる興味本位の・快楽のみを追い求めるようなものとして捉えないでください。

性交は、自立した人間同士が、対等な立場で、プライバシーが保たれた中、二人の合意のもとに行なわれる行為です。

そんな二人の行為だからこそ、性交は二人の絆を深め、そして、新しい生命を生み出すことができるのです。

「クラミジア」や「淋病」、また「HIV」などの性感染症に感染する人が増え、性感染症が身近な問題になっています。しかし、愛し合う二人の素敵な関係において、性感染症を、無縁なものとする方法はありません。そのひとつは、「性交しない」こと。もうひとつは、もし性交するならば、「いつも必ず」、「始めから終わりまで」、「確実に」コンドームを使うことです。コンドームの使用は愛し合う二人の「お互いに対する愛情の証」です。

「性感染症」に感染しないために次の認識を持つことができる。

(できるものをチェックしてください)

- 「性感染症が多い時代に自分は生きている」という自覚を持っている。
- たった一回の性交でも、コンドームを正しく使わなければ性感染症に感染する可能性があることを理解できる。
- 口を使った性交の際もコンドームを使わなければ感染することがある。

10

「出会い系サイト」を利用した交際により、多数の犯罪が発生しており(H16年;1582件)、下記の様な事件が実際に起こっていることから、その危険性を十分に理解できている。

できている  できていない

**事例1** 出会い系サイトで知り合った相手。待ち合わせの場所に行くと車が止まっていた。ドライブに行こうということで、誘われるまま助手席に乗った。その後、相手の態度が急変し、「俺はヤクザだ。抵抗するとお前とお前の家族を殺す」と言われ、ドアロックをかけられ、携帯電話も奪われた。相手の部屋に連れて行かれると、そこに2人の男が待っていて、暴行された。

**事例2** 出会い系サイトで知り合った相手と街で会った途端、「おれのことを好きになれ。好きにならなかつたら殺す。」と脅され車に乗せられた後、自宅に連れ込まれ手錠をかけられた。その後3週間監禁・暴行された。

12

性被害にあった場合には、早急に大人に相談して必要な治療を受けるとともに、さらなる被害者を出さないためにも、警察へ被害を届け出ることが重要であることを、理解できている。

できている  できていない

県警では、「性犯罪被害110番」を開設し、婦人警察官が秘密厳守で対応してくれます。電話0120-783870(平日8:30~17:15)。警察に加害者を逮捕してもらい、性犯罪の罪を償わせましょう。

興味本位で作られた性情報の中の誤りをしっかりと見抜く力を身につけることが重要であることを、理解できている。

できている  できていない

アダルトビデオ等の中には、妊娠や性感染症につながる危険な行為が数多く示されています。危険性を見抜き、それらの行為を無批判に受け入れたりしないようにしましょう。

14

## おわりに

本稿では現在の若者の性行動の問題点を踏まえ、その望まない妊娠の防止やHIVを含む性感染症への感染防止のための啓発教材としての小冊子の教材開発を行った。

高校生を対象とした教材であり、講演形式のレクチャーの場合では約90分間で完了するボリュームである。

現時点では静岡県内の3つの公立高等学校において、試験的にこの小冊子を活用した性教育を実施し終え、その実践の評価について検討中である。生徒の評価を踏まえながら、よりより性教育の教材開発を行っていくことが、今後の研究の課題である。

## 参考文献

1. 2007 AIDS epidemic update : UNAIDS/World Health Organization
2. 厚生労働省：エイズ発生動向調査（2004～）
3. 児童・生徒の性：東京都小学校・中学校・高等学校の性意識・性行動に関する調査報告（2005年）
4. 厚生労働省：母体保護統計報告（2004～）
5. 全国高等学校PTA連合会：全国高校生の生活・意識調査（2004）
6. 厚生労働省：性感染症の効果的な蔓延防止に関する研究班報告／高校生の無症候性クラミジア感染症の大規模スクリーニング調査研究（2004）